

2024年3月期 決算説明会 質疑応答要旨

株式会社 平和
経営企画グループ

2024年5月14日に開催いたしました「2024年3月期 決算説明会」における質疑応答の要旨は以下のとおりです。

【遊技機事業】

Q1. 遊技機のヒット要素は「人気版権」×「開発力」×「販売力」にあると考えるが、現状パチンコの課題はどこにあると考えているのか。

A1. ヒット商品には「人気版権」「開発力」「販売力」の3つの要素が重要であると認識している。現状、当社が課題としている点は、若年層に人気の版権の確保と、開発力の強化と考えている。版権については、昨年から若年層向けの人気版権の取得に動いており、開発力の面では市場ニーズを捉えた更なるゲーム性の向上の強化を図っているところである。

Q2. 夏頃にスマパチの内規改正が行われると言われているが、今期のスマパチとスマスロの販売見通しは。

A2. 7月にスマパチの内規変更が予定されており、「ラッキートリガー」機能を搭載したスマパチの販売が増加すると見込んでいる。年末に向けて、スマパチの販売台数は伸びていくものと予想している。一方、スマスロの販売も順調に推移しており、パチンコ・パチスロともに同程度の総販売台数になるのではないかと想定している。

Q3. 「ToLOVE るダークネス」の販売状況は。

A3. 「ToLOVE るダークネス」は若年層向けの新規コンテンツとして期待を寄せているタイトルとなる。このような若年層に人気の版権を投入することで、当社のブランド力向上を図っていく。販売状況については、現時点で具体的な数字は申し上げられないが、今後の動向に注目しているところである。

Q4. 内規の変更により「ラッキートリガー」やスマパチの性能はどう変わるのか。

A4. 現在、P機を中心に「ラッキートリガー」機能によってゲーム性の幅が広がっており、プレイヤーの皆様から好評を博している。内規の変更により、「ラッキートリガー」機能を搭載したスマパチが新たに登場する。スマパチの性能が向上し、人気が更に高まるものと考えている。

【ゴルフ事業】

Q5. ゴルフなどはリオープニングの流れもここ数年はあるが、今後のカタリストは何になるのか。

A5. ゴルフ事業において、今後のカタリストとなるのは、若年層や女性を中心とした次世代ユーザーの獲得だと考えている。そのため、女性向けサービス「ANGEL GOLF」や話題性のあるサービスを展開し、新規顧客層の開拓に注力している。多様化するプレースタイルに対応し収益の最大化を図りながら、幅広い層にゴルフの魅力を伝えていきたい。

Q6. 中期的に考えて顧客単価の値上げ余地はあるのか。

A6. 今期計画の顧客単価9,719円から、将来的には1万円程度まで顧客単価を伸ばせる余地はあるものと考えている。ゴルフ事業の4月の滑り出しは順調で、顧客単価・来場者を含め好調な動きとなっている。競合他社の状況を見ながら適正な価格設定を行い、当社ならではのサービスや施策とあわせて、更なる単価アップを目指していきたい。

Q7. 女性ユーザー比率やコンペ需要の状況は。

A7. 女性ユーザー比率については、2020年の13.9%から2023年には14.7%まで上昇している。引き続き女性ユーザーの取り込みを図っていきたい。コンペ需要については、大規模コンペは完全に回復するには至っていないが、3組から5組程度の小規模コンペの需要は回復傾向にある。

Q8. 「PGM ホテルリゾート沖縄」について、総工費、予定稼働率などの見通しは。

A8. 「PGM ホテルリゾート沖縄」の総工費については、当初計画では200億円から250億円程度を見込んでおり、物価上昇等で変動することは想定している。稼働率は80%を目指しており、沖縄の観光事情に鑑みれば、十分な収益が期待できるものと考えている。

【その他】

Q9. 最近、新たな株主還元策や変更等を行う企業が増えている中、株主還元に対する考えを再確認させてほしい。

A9. 当社の株主還元については、高水準の安定配当を基本方針としている。バイバックや配当性向、DOE、総還元性向など、他社が積極的に打ち出している施策・指標は認識している。まずは、現状の方針を維持しつつ、遊技機事業・ゴルフ事業の収益確保に注力していきたい。

以上